**りんどう黒斑病対策**

（平成25年度病害虫発生予察情報　特殊報　第３号より抜粋、一部修正）

１　病徴と発生生態

はじめ、葉に直径約５mmの褐色の斑点が発生し、徐々に輪紋状に病斑が拡大して（図１）、葉全体が枯れる。病勢が進展すると、がく片や花弁にも褐色の斑点を生じる（図２、図３）。本病の病斑は、葉枯病や灰色かび病と酷似している。

岩手県の報告によると、発病適温は20～25℃で、接種後３日目頃から褐色の葉枯れが認められ、５日目には大型病斑が形成される。

本病が感染した被害植物の残さは、翌年の第一次伝染源となることが考えられる。

２　防除対策

1. 発病を確認したら、速やかに薬剤防除を行う（表）。

(2)　発病葉、被害残さは、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

表　りんどう黒斑病に登録のある薬剤の例（令和６年１月10日現在、

独立行政法人農林水産消費安全技術センター農薬登録情報提供システムより）

|  |  |
| --- | --- |
| 薬剤名（商品名） | ＦＲＡＣコード |
| ペンチオピラド水和剤（アフェットフロアブル）ピラジフルミド水和剤（パレード20フロアブル）インピルフルキサム水和剤（カナメフロアブル）メパニピリム水和剤（フルピカフロアブル）クレソキシムメチル水和剤（ストロビーフロアブル）ポリオキシン水溶剤（ポリオキシンＡＬ水溶剤）※花き類･観葉植物で登録イミノクタジン酢酸塩（べフラン液剤25） | ７７７９1119M7 |



図１　黒斑病の病徴（本葉の輪紋症状）　　　 図２　黒斑病の病徴（がく片の枯れ）



図３　黒斑病の病徴（花弁の斑点）　　　　　 図４　りんどう黒斑病菌